

令和3年度 第1回

秋田県行財政改革推進委員会議事録

日 時

令和3年7月9日（金）

午後1時30分～午後3時30分

場 所

秋田県地方総合庁舎 総604会議室

出席者

【委員】（五十音順）

遠藤宗一郎委員

近藤克幸委員

高橋美佳子委員

【県】

菅生総務課長

田口総務課政策監

今野総務課副主幹

伊藤総務課主事

1 開 会

（司会：今野副主幹）

ただいまから、令和3年度第1回秋田県行財政改革推進委員会を開催します。

始めに、県総務課長の菅生より、挨拶を申し上げます。

2 総務課長挨拶

（菅生総務課長）

委員の皆様には、御多忙の中、秋田県行財政改革推進委員会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、このたびの秋田県行財政改革推進委員会委員の改選に伴いまして、委員への再任を御承諾いただきましたことにも、重ねてお礼を申し上げます。

今年度から本委員会の運営体制を見直し、3名の委員構成で審議を行うこととしました。その分、委員の皆様には御負担をお掛けすることとなりますが、よろしくお祈いします。

さて、県ではこれまで、行政コストを削減する「量の改革」と、行政サービス向上により県民の満足度を高める「質の改革」という2つの観点から、行財政改革に取り組んできました。本日は、新行財政改革大綱（第3期）に係る、令和2年度の実績評価をお願いしたいと考えております。

新型コロナウイルスの影響が長期化し、本県はこれまでに経験したことのない厳しい状況に直面しております。こうした中であっても、最適な行政サービスを提供するためには、効果的・効率的な行財政運営を目指し、そのあり方について不断の見直しを行っていくことが必要だと考えております。委員の皆様には、それぞれのお立場から忌憚のない御意見、御提言をいただきますようお願い申し上げます。

なお、本年度は、現大綱の最終年度に当たります。来年度以降も行財政改革の取組を着実に推進するため、新たな取組項目の策定に向け、本年の秋頃にも委員会の開催を予定しております。

本日を含め、委員の皆様には、特段の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

3 委員紹介及び事務局紹介

【事務局から委員及び事務局の職員を紹介】

4 委員長・副委員長選出

（司会）

お手元の参考資料「秋田県行財政改革推進委員会設置要綱」を御覧ください。

要綱第4の規定により、委員長及び副委員長

を互選することとなっておりますが、選出について、いかがいたしましょうか。

事務局から提案をさせていただいてよろしいでしょうか。

それでは、委員長には近藤委員に、副委員長には高橋委員に、それぞれお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【異議無しの声】

(司会)

ただ今をもって、委員長には近藤委員が、副委員長には高橋委員が選出されました。それでは、近藤委員から委員長就任の御挨拶をお願いします。

5 委員長挨拶

(近藤委員長)

昨年度までは、評価専門部会で細かな意見のすり合わせをした上で、本委員会を行うという形でしたが、今年はやり方を変えて、その評価と意見の審議を一括して行うこととなりました。

なかなかボリュームがありますので、手際よく進めていきたいと思っております。どうかよろしくをお願いします。

6 議事

(1) 新行財政改革大綱（第3期）の令和2年度実績の評価について

(近藤委員長)

1点目は、「新行財政改革大綱（第3期）の令和2年度実績の評価について」です。まず、事務局から評価方法等について説明をお願いします。

【事務局から評価方法の説明】

(近藤委員長)

ありがとうございました。

次に、資料2により各項目の評価に入ります。

【資料2により評価及び意見を調整】

※審議を経た最終的な委員会としての評価結果及び意見は「新行財政改革大綱（第3期）」の令和2年度実績評価（委員会審議後）のとおり

(2) 令和4年度以降の行革の取組について

(近藤委員長)

それでは、議事の2点目、「令和4年度以降の行革の取組について」に移りたいと思っております。まず、事務局から説明した後、委員の皆様から御意見を頂戴してまいります。

それでは、事務局から説明をお願いします。

(田口政策監)

令和4年度以降の行革の取組については、秋に予定している、次回の委員会で御議論いただく予定としておりますが、本日は、今現在の方角性について御紹介をさせていただきます。

現状・課題についてですが、行革というのは、県の人員や財源は限られている中で、県政の運営指針である「ふるさと秋田元気創造プラン」に掲げた施策・事業を着実に実行していく下支えのために取り組んでいくものだということがあります。

一方で、今日見ていただいた行革大綱というのは、「行政の効率化」、「最小の経費で最大の効果を」といった量的な面から見ると、防災や教育力向上といった間接的な項目が盛り込まれております。そういったものについては、すでに県の元気対策プランや教育振興計画などでも取組が行われているようなものが、行革大綱にも重複して盛り込まれていて、内容が非常

に多岐に渡っているわけです。

行革大綱（第3期）には61の取組内容が盛り込まれており、膨大になっているので、ここで一旦スリム化を図る必要があるのではないかと考えております。

こうしたことから、次期行革大綱について検討するに当たっては、他の計画と重複しているものや、個別の計画の中でPDCAサイクルを回しているもの、あるいは取組が定着しているもの等については、掲載しなくてもいいのではないかという観点から項目を整理し、取組の絞り込みを行っていききたいと考えております。

次期行革大綱については、先ほどもお話ししたとおり、県政の運営指針である元気プランに掲げた施策事業を、財政や職員といった資源の面から裏付ける取組というものなので、他県の例も踏まえ、新たな元気創造プランの中に行革の取組方針を一体的に規定するような形で策定していくことを考えております。

現時点の取組項目として絞り込んだテーマは主に2つ考えており、一つ目が、県民の利便性の向上と業務の効率化に向けた行革の推進、それから二つ目として、経費削減を進めていく上で、民間活力の導入により行政サービスの質向上を図るとともに公費負担の抑制を図るといった取組です。

行革のコアな部分に絞り込んだ形でやっていきたいと考えております。

今後の検討スケジュールですが、10月か11月になるかもしれませんが、第2回の行財政改革推進委員会において皆様にも御議論いただき、12月の県議会に方針を示した上で、来年の4月から新たな取組方針に基づく取組を行うということを想定しています。

また、行革大綱（第3期）の最終年度である今年度の取組の結果については、また来年の今頃に委員会を開いて行うこととしております。

説明は以上です。

（近藤委員長）

それでは、委員の皆様から御意見、御質問がありましたら発言をお願いします。

（高橋委員）

今おっしゃったように、項目を絞り込んでスリム化を図るということは理解しました。その方針については、特に問題は無いと思います。

（遠藤委員）

高橋委員と同じく、この大綱の中でも重複を感じる点もあったので、スリム化するという方針には異論ありません。

（菅生総務課長）

一応補足しますと、（1）と（2）のテーマについては、あくまで現時点での例示であり、これだけということではありません。テーマは2つ程度に絞ったほうがいいのかと考えていますが、それにぶら下がる内容はこれから増えてくると思います。

（今野副主幹）

11月頃の第2回委員会においては、目標設定のところまで入れられるかは未定ですが、もっと肉付けされた内容の具体についてお示しする予定としています。

（近藤委員長）

分かりました。

ちなみに次期の取組実施期間は4年間のものですか？

（菅生総務課長）

そのとおりです。

(近藤委員長)

なぜ聞いたかという、もし6年間の計画だった場合、書面・対面規制などの今流行っているものを盛り込もうとすると、5年ぐらいしたら、いつまでこれをやっているのかと見られるおそれがあるからです。

4年ぐらいであれば、書面・対面規制に関してオールクリアになっているということは無いだろうから、その心配は要らないかと思いますが。

(今野副主幹)

そのような記載内容の風化を避けるためにも、計画に盛り込む際には、県民の利便性の向上という目的から書き始めて、そのための一手段として書面・対面規制の見直しといった取組を記載するような書きぶりにしようと考えています。

(近藤委員長)

そうですね。やはり手段と目的が履き違えられないよう気をつけていただきたいと思います。

また次回、そういう観点も踏まえて、テーマにぶら下がる内容について議論していくことにしましょう。

それでは、事務局に進行をお戻しします。

7 閉会

(司会)

長時間にわたって御議論いただき、ありがとうございました。

最後に総務課長から、閉会に当たり、御挨拶を申し上げます。

(菅生総務課長)

長時間にわたりまして、委員の皆様には様々な視点から貴重な御意見や御提言を頂き、あり

がとうございました。

取組実績の評価については、県の取組が不十分なところもありましたが、概ねよく取り組んでいるという評価を頂き、心強く思ったところです。

皆様から頂いた前向きな御意見や御提言については、できる限り反映させていきたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

(司会)

これで、令和3年度第1回行財政改革推進委員会を終わります。本日は、ありがとうございました。